岡田かつや後援会会報

NEWS LETTER

ニュース・レター
2006 SPRING-SUMMER
vol.22

衆議院議員
岡田かつや

ごあいさつ

衆議院議員 岡田かつや

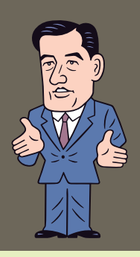
いわゆるメール問題の責任を取って、前原代表が辞任しました。民主党が国民の皆さんの期待と信頼を裏切ってしまったことは、私も代表経験者として大変申し訳なく思っています。

新代表には小沢一郎さんが就任しました。いま大切なことは、党所属国会議員全員が小沢代表をしっかりと支え、一致団結することです。そういう中で、失った期待と信頼を取り戻し、政権交代に向けて態勢を整えていかなければならないと気を引き締めています。

私自身は今年に入り、特に衆院予算委員会の審議・質疑に集中的に取り組んできました。また、常任幹事として党運営に携わりながら、4度の海外出張、前議員や候補予定者の応援回り、新たな議員連盟の立ち上げなど、党代表を辞任したあとも忙しく日々を過ごしています。役職を離れたお陰で地元にも毎週末戻れるようになり、多くの皆さんと会うことができるのが最大の喜びです。

いまは予算委員会も終わりましたので、多くの人と会ったり、各地の現場を見て回ったりと、国会以外にも活動の幅を広げています。政治家としてもっと成長すると同時に、民主党の若い人材を育てることが、当面私が行なうべき仕事だと考えています。今後とも皆さんのご支援をよろしくお願い申し上げます。

KATSUYA'S REPORT



論戦・論争

予算委員会ハイライト

いわゆる「4点セット」で幕を開けた通常国会。岡田かつやも予算委員会に100時間近く出席し、4回のべ4時間にわたって小泉総理や安倍官房長官、麻生外相らと議論しました。

（詳細はホームページの発言ライブラリーにアクセスしてください）

小泉改革の総括

岡　田　小泉改革の中身を見ると、何のための改革だったのか分からないものが多い。
まず道路公団民営化。先般、高速道路計画9,342㎞のほとんどを造ることが決まった。
総　理　全部造るわけじゃない。凍結区間もある。
岡　田　わずか100㎞だ。
次に郵政民営化。将来的に郵政持株会社は3分の1以上の株を国が持つが、どういうスケジュールで売却するのか。
総務相　これから事業計画を立てて判断する。
岡　田　10年後には3分の1まで下げると約束してもらいたい、総理。
総務相　具体的なビジネスプランはこれから示す。
岡　田　総理から全く答弁がないことからも、責任を持ってやる形になってない。民営化とは本来、民間資本を入れることだ。道路も郵政も民営化とは言えない。

格差社会

岡　田　総理は「所得格差の拡大は確認されない」と答弁しているが、本当にそうか。
総　理　どの時代、どの国においても格差はある。格差があることは必ずしも悪いことではない。
岡　田　格差がある、ないの議論をしているのではない。格差が拡大しているかどうかの議論をしている。
総　理　成功者の足を引っ張って言うのはよくない。仮に格差が広がっていても悪いことではない。
岡　田　現実を分かったうえで政治をやっていくのか、目を閉ざして開き直るのか。そのことが政治家の姿勢として問われている。
総　理　何もやっていないと批判されるのは心外だ。
岡　田　努力したけれども報われなかった、チャンスを活かせなかった人もたくさんいる。そういう人たちに光を当てていくのが政治の役割だ。

歴史認識問題

岡　田　60年前の戦争は自尊自衛のやむを得ない戦争だったという見方が一部にあるが、どう考えているか。
外　相　歴史の判断するところだ。
官房長官　政府の立場で歴史の裁判官としてこうだと言うべきではない。
岡　田　A級戦犯は戦争犯罪人と総理は言ったが同じ認識か。
外　相　国内法では犯罪人扱いではない。
官房長官　A級戦犯は赦免された。
岡　田　東京裁判は国内法を超越する上位概念だ。A級戦犯が赦免されても裁判自体を無効にするものではない。
官房長官　岡田氏はGHQの側に立っているようだ。東京裁判を受け入れなければ独立を回復できなかった。苦渋の判断の上に私たちの現在がある。
岡　田　国民の立場に立って戦争責任を明確にするためだ。苦渋の選択だったとは思わない。60年前の戦争は悲惨で愚劣な戦争だった。同じ過ちを繰り返さないためにも、政府として検証すべきだ。
外　相　政府としては考えていない。
官房長官　アカデミックな観点から識者が議論することだ。
岡　田　自分自身で戦争の総括をせずに、東京裁判はやむを得ず受け入れたものだと言うなら、結局それは全部責任を負わない、誰も責任を負わないと言っているに等しい。

ライブドア事件

岡　田　総選挙で自民党と堀江氏はお互いに利用し合った。ライブドアの株価は上がり、自民党は比例票を増やした。
総　理　株は上がるときもあれば下がるときもある。自己責任だ。
岡　田　株主に誤ったメッセージを送った張本人である総理が、自己責任だと開き直るのか。

財政再建

岡　田　基礎的財政収支の黒字化は歳出削減だけでやるのか、増税を噛み合わせてやるのか。
総　理　歳出削減だけでは無理だ。
岡　田　黒字化達成後の次なる目標としてどういうものを考えているのか。
総　理　その時点での為政者が考えるべき問題だ。
岡　田　総理は増税も含めないと黒字化達成は難しいと言った。しかし一番大事なことは歳出削減でどこまでできるのか、そしてその具体的なプログラムだ。

＜※注：総　理−小泉総理／総務相−竹中総務相／
外　相−麻生外相／官房長官−安倍官房長官＞

ざっく・ばらん INTERVIEW

政治家としての原点を国民の視点から見つめて、”政権交代できる“政治をめざす。

代表を辞任してから8カ月を経て、岡田かつやは、政調会長、幹事長、代表と多忙を極めた5年間に一区切りをつけて、新たな境地で精力的に活動を始めている。その岡田の近況について、インタビューしてみた。

●インタビュアー：中西幸子

Q 代表を辞任されて8カ月ほどになりますが、現在の心境は？

岡　田：政調会長、幹事長、そして代表と5年間ほど非常に忙しく過ごしてきました。
いま、腰を据えて、政治家として大切なことに取り組んでいるところです。代表時代にはなかった時間と自由を得て、のびのびとした気持ちで活動しています。

Q 現在、主に取り組んでいる活動は？

岡　田：今、私は4つのことを重点的に行なっています。1つは国会、2つ目は地方、3つ目は海外、4つ目は地元の活動です。
1番目の“国会”は、もちろん国会議員は国会での活動が一番重要ですからね。私は予算委員会の委員として予算審議に参加して、2回2時間総理に対して質問に立ちました。代表の時には小泉総理に逃げられてばかりで（笑）、党首討論の機会も少なかったんですが、代表をやめたことで充実した討論もできました。
小泉構造改革の5年間の総括とか、格差の問題、アジア外交とかかなり真剣な議論もできたと思っています。

2番目の問題として、“地方”があります。私は“現場を見る”ということがとても重要だと思っています。地方の候補者の方や、まだ基盤の固まっていない当選回数の少ない議員の応援に行って、それに合わせて地方の現場を見るという活動を、力を入れてやっています。代表時代にも全国47都道府県を回りましたが、限られた時間の中でしたので、今回は、もっと時間をかけてじっくりとやりたいと思っています。
3番目は“海外”。これも現場を見るということなんですが、今年1月にパキスタンの地震の被災地訪問に続いて、3月には台湾・中国、ゴールデン・ウィークのイランとたて続けて海外訪問を行なってきました。今後は、エイズ問題で苦悩するアフリカや成長するインドを訪問したいと思っています。各国の要人と会うことも重要なんですが、現場を見るということが非常に大切なんですね。
4番目に“地元”ですね。今年は、幹事長になって以来、どうしても時間の調整がつかずに出来ないでいた“地元での座談会”を復活して、年間200回以上やろうと思っています。現在も地域の方々のご協力で順調に進んでいます。地元の皆さんと直接意見交換して、生きた声に触れることは、本当にいい勉強になります。ここに私の政治家としての原点があると思っていますので、大切にしていきたいですね。
この4つのことが、今私が政治家として最も重要なことだと思っています。

Q 最後に、一番気になることですが今の民主党が、さらに飛躍するためにはどうすればいいとお考えですか？

岡　田：前原前代表が途中で退かざるをえなかったことは非常に残念だったと思っています。しかし小沢さんが新代表に就任し、小沢新代表のもとに党としての結束を固めて、もう一度政権交代できる政治をめざしていかなければならないと思っています。どの国の民主主義も政権交代がないということは考えられないのですから、必ず政権交代のできる政治を実現しなければならない責任が私たちにはあると思っています。今年の9月に小泉総理が退任し、新総理になった時点で、きっと自民党政治の中味のなさが表面化すると思いますので、チャンスは必ずやってきます。私たちはそのチャンスを活かし、政権交代をめざしたいと思っています。そのためには、私が代表の時から言ってきたことなんですが、国会で民主党の考えを明確に打ち出してしっかり議論すること、そして、民主党の考えを皆さんにわかりやすい形で伝えていくこと、この2つが大切なんです。
民主党には有能な人材がそろっています。充分に政権交代は可能だと思っています。準備はいつでもできている、私はそう確信しています。

インタビューを終えて

●中西 幸子

岡田さんの“政権交代のできる政治”への変わらない信念と熱意、そして政治家として地元の人達との対話を忘れない真摯な姿勢が、私の心に強く響いてくるインタビューとなりました。今後のご活躍を期待しています。

■プロフィール
「国際海洋会議」の司会をはじめ、三重県内の講演会、コンサートなどの司会として幅広く活躍中。

岡田かつや NEWS LETTER 2006 SPRING-SUMMER vol.22

岡田かつや後援会会報 vol.22
■発行所：岡田かつや後援会事務所
●後援会事務所 〒510-8121 三重県三重郡川越町高松30-1 ☎059(361)6633
●国会事務所 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 ☎03(3508)7109 衆議院第一議員会館443号室
ホームページアドレス http://www.katsuya.net/

岡田かつやプロフィール
昭和28年生まれ、52歳。東大法学部卒、元通産省企画調査官、36歳で初当選。衆議院安全保障委員長、民主党政調会長、民主党幹事長などを経て民主党代表に就任、平成17年9月辞任し現在に至る。当選6回。

The Democratic Party of Japan 民主党

活動報告 日本再生への変わらぬ思い。今こそ、皆さんと共に更なる飛躍を!

「変わらぬ思い、貫く信念」―今だからこそこの言葉が心に響いてくる。代表を辞して8カ月、岡田かつやの新たな活動は、政治家として大切な原点を見つめ、より強い信念に貫ぬかれた歩みを始めている。国民の視点に立った政治、政権交代ある政治をめざして、一回り大きくなった岡田かつやの今後の活動に、期待が膨らむ。

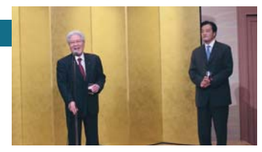
国内レポート JAPAN REPORT

12月 2005年

3日・4日・5日 **【地域後援会年末懇親会】**
毎年恒例で年頭に後援会の新年賀詞交換会を開催していますが、今回は年末懇親会とし、3日にいなべ市・東員町、4日に四日市西部・菰野町と四日市南部、5日に桑名市・木曽岬町の4会場で開催し、地区後援会の皆さんと懇親を深めました。

15日 **【東京大学の講演会にパネリストとして参加】**
東京大学のサークルである法律相談所が主催する講演会に、私を含む同サークルOB5名がパネリストとして参加しました。テーマの一つが『現在の職業について』ということでしたので、私が通産省から政界入りしたこと、自民党から民主党へ移った経緯などについて説明しました。また、今の政治が抱かえている大きな問題点として、単独政権が長期間続いていることの異常性を指摘し、政権交代の必要性を主張しました。

1月 2006年



16日 **【企業後援会新年懇親会】**
四日市企業・団体後援会の新年会を開催し、250名の方々に参加いただきました。

27日 **【『遊就館』を訪問】**
靖国神社内にある歴史展示施設『遊就館』を訪問しました。過去の戦争で罪のない多くの日本人が犠牲になり、またアジアの周辺諸国に多大な苦痛と損害を与えたことを再確認し、戦争の悲惨さを改めて認識しました。それにしても、戦争に至った経緯やその評価に対する遊就館の一方的な歴史認識には強い違和感を覚えました。

2月

4日 **【座談会スタート】**
約2年ぶりに座談会（字単位のミニ集会）を開催しました。夜2会場約50人の方にご参加いただきましたが、活発なご意見をいただき良いスタートがきれたと思っています。座談会は私の政治活動の原点と思っており、私の最も好きな活動です。これから、地元の各地で開催していく予定です。

19日 **【地元の遺跡視察】**
四日市市久留倍遺跡を視察しました。四日市市長も同行していただき、市教育委員会の方より説明を受けました。久留倍遺跡は弥生時代から室町時代にかけての遺跡で、平成15年に古代の郡衛跡が見つかり一躍脚光を浴びることになりました。地元で歴史的な遺跡が発見されたことは誇りであり、しっかりと保存していく必要があると思います。
午後、近鉄四日市駅前で街頭演説をしました。昨年の総選挙後初の地元での街頭演説で、地元県議の田中さん、稲垣さん、中森市議も参加いただき、私は国政報告をしました。終了後、握手を求められたり、写真を撮ったりしました。応援にかけつけてくれた支援者の顔も見え、地元の温かみを感じたひと時でした。

3月

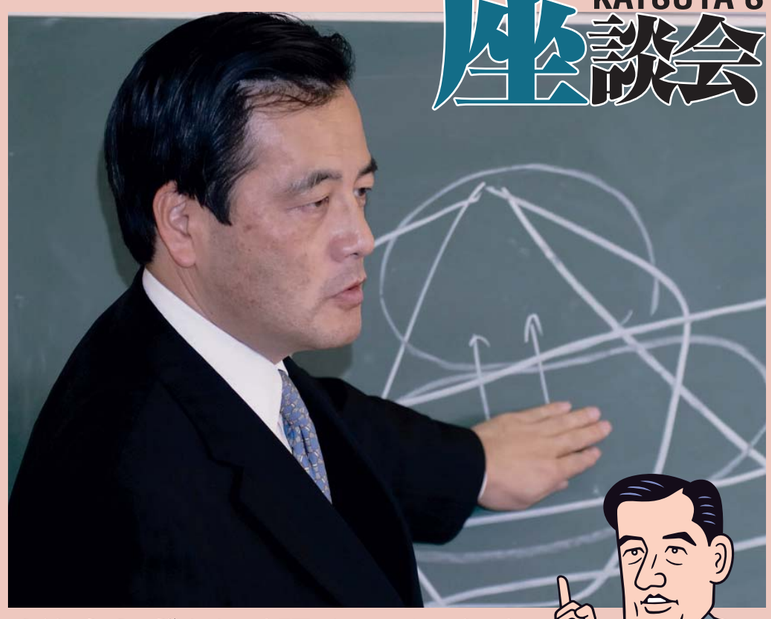
6日 **【慶応ビジネススクールで講演】**
慶応ビジネススクールで講演。小泉改革の総括、格差論、アジア外交、そして民主党の今後などについてお話ししたあと、学生の皆さんと質疑応答を行いました。計2時間近く、ずっと立ちっぱなしで講演・質疑を行い、後半は上着も脱いで、前途有望な社会人学生の皆さんと議論し、更に講演後も有志の学生の皆さんと食事を取りながら懇談しました。

10日 **【地方応援】**
福井県入りし、福井新聞社主催の政経懇話会で講演しました。地元福井の企業経営者など約100名に集まっていただき、「『小泉後』の日本政治」と題して講演と質疑をしました。
その後、我が党の笹木竜三衆院議員と若泉征三前衆院議員の地元に入り、それぞれの支援者の皆さんに国政報告し、意見交換しました。
この地方応援は夏にかけて積極的に行なっていきます。

23日 **【NGO海外活動推進議員連盟立ち上げ】**

民主党NGO海外活動推進議員連盟の第1回総会を開催しました。会長には私が就任し、事務局長には西村智奈美衆院議員が就任しました。国際的な活動をしているNGOに対する党の窓口として、NGOの皆さんと交流を深め、日常的な協力関係を築くことを目的として立ち上げました。今後は、幅広い分野のNGOと意見交換を行ない、NGOの海外活動に対して政治ができることを積極的に行なっていきたいと考えています。

KATSUYA'S 座談会



**政治をむずかしく語るのではなく
膝を交えて、じっくりと。
皆さん一人ひとりとHOTに対話する。**

幹事長、代表時代にできなかった地元の座談会を今年、復活しました。熱心な地元の方々の協力を得て、年間200回以上の開催をめざしています。20名～50名ほどの小さな座談会で膝をつき合わせて、地元の方々の生の声を聞き、直接意見交換ができることは、私にとっても貴重な勉強ができ、意義深いことだと思っています。参加された方々のホンネの言葉の中に、新しい政治へのヒントが隠されていて、大変勉強になっています。是非とも、皆さんのお近くの会場に行った際には、お気軽にご参加ください。

年内に200～250会場開催予定
**2月4日をスタートに2年ぶりの座談会は毎週末開催しています。
4月末現在で51会場。1会場20～50名の方が参加。
生活者の生の声を聞くまたとない場です。**

4月

26日 **【党支部大会開催】**
第8回民主党三重県第3区総支部大会を開催。定期大会に先立ち支部役員会を開き、1人が退任4人が新幹事として就任いただきました。大会では党員・サポーターの方からご意見をいただきました。

8日 **【『政治スクールみえ』開講】**

民主党三重県連主催の「政治スクールみえ」が開講しました。塾長には私が就任しました。今日の開講式には、第1期生として39人（男性30人、女性9人）の塾生が参加しました。私からは「共に学ぶがキーワード。原点に返って皆さんと学びたい」と挨拶しました。塾生の自己紹介では、年齢も18歳から68歳、職業も主婦や会社員・自営業・元市議・学生等多岐に渡り、政治スクールに対する期待を強く感じました。開講式のあと、1回目の講義として、高橋千秋参院議員が「政治動向と民主党が目指すもの」、そして私が、「日本の現状と未来」について講演しました。質疑も多く、活発な議論が出来ました。いいスタートが切れたと思います。今後毎月1回、8回にわたる講義を実施します。全講義が終了後には、参加者の政治に対する関心がより一層高まればと思っています。

海外レポート WORLD REPORT

1月 2006年

【パキスタン訪問】 9日～12日
昨年10月8日に発生したパキスタン北部大地震の被災地を訪問しました。震災によりほとんどの建物が倒壊し、3カ月たってもまだ瓦礫の撤去がすすんでないバラコート市内の状況や、カシミール州ムザファラバード近郊に開設された日本のNGOが共同運営する『キャンプジャパン』を視察しました。

**パキスタン地震被災地
ムザファラバード「キャンプ・ジャパン」より**

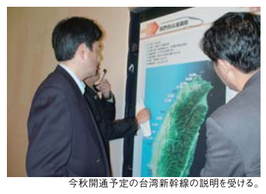
皆さんもよくご存じのように、パキスタンでは昨年10月に大きな地震が起こりました。
今回、被災地を訪れてみて思うのは、子どもたちの多さです。そして、多くの子どもたちが地震で親を亡くしたりしています。このキャンプにもそういう子どもたちがたくさんいます。
本当に厳しい状況にあります。是非、日本の皆さんの、このパキスタンの地震に対するさらなる支援をお願いしたいと思います。
現地に直接来ることのできない皆さんには、間接的な支援をしていただくなかで、同じ人間として、この困難な状況にあるパキスタンの人たちに対してご支援をいただきたいと思います。

民主党の「パキスタン地震緊急募金」は下記へお願いします!
●銀行
口座名 民主党募金口座
銀行名 りそな銀行 衆議院支店（店番号328）
口座番号 普通 7815354
●郵便局
口座名 民主党
口座番号 00110－6－65328
＊振込人名義の前に、又は通信欄に「パキスタン」と明記の上お振込ください。

3月

【台湾訪問】 19日～21日
民主党の北橋健治、古本伸一郎、三日月大造各衆院議員とともに台湾を訪問しました。陳水扁総統ら政府・民進党・国民党の主立った人々と会談し、台湾の独立を支持しない、中国の台湾に対する武力行使に反対するとの我が党の見解を述べたうえで、かなり深い議論ができました。中台問題は日本の安全保障に直結する問題であり、関係者の意見を聞くことができたのは大きな収穫でした。また、台湾のシリコンバレーと呼ばれる新竹サイエンスパークを視察しました。

台湾の陳水扁総統と


今秋開通予定の台湾新幹線の説明を受ける。

【中国訪問】 30日～4月1日
日中友好7団体訪中団の一員として、中国・北京を訪問しました。私は7団体の1つである日中友好議員連盟の副会長という立場で、自民党の高村会長や公明党の太田副会長らとともに参加しました。北京では胡錦涛国家主席との会談に出席しましたが、胡錦涛主席が「中国は未だ開発途上国であり日本の支援を必要としている」「20年間の日中友好に関し私たちの感謝の気持ちを伝えてもらいたい」と語っていたのが印象的でした。残念ながら会談で私が発言する機会はありませんでしたが、会談後、胡錦涛主席と立ち話をする機会がありましたので、日中両国民の排他的ナショナリズムが過激にならないよう沈静化させる努力が両国指導者には必要だと伝えました。

中国の胡錦涛国家主席と

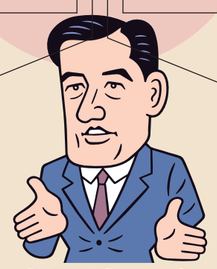
INFORMATION

『政治スクールみえ』

民主党三重県連主催で『政治スクールみえ』が始まりました。
第1期生を、県内全域に広く新聞広告・新聞折込・HP等で募集したところ、多数の応募がありました。30名の定員でしたが、たくさんの応募でしたので、選考の結果、第1期生として39名の方に入塾いただきました。第1期の塾長は岡田かつやが務めます。塾生は年齢も職業も幅広く多岐にわたり、月1回計8回の計画で、各方面の講師を交えながら皆さんと一緒に政治について学んでいく予定です。4月8日に開講式がありました。
（4月8日の活動報告をご覧ください。）

『女性政治家公募』

政治家を志す意志のある女性を広く県民から公募しました。民主党は女性政治家の拡大を目指しています。地方政治においても、女性政治家はまだきわめて少ない状況ですが、これからは女性の選挙への関心、参加が大きく世の中を動かしていく原動力になると考えています。今回2月末日締切で、新聞広告・新聞折込・HP等で募集し、一次審査（小論文）、二次審査（面接）を行ないましたが、残念ながら今回の応募では立候補予定には至りませんでした。
今後も広く女性政治家志望者を募っていくつもりですので、志ある方は是非応募してください。



**日本再生に向け
皆様とともに考えたい。**

『オープンセミナー』

毎月テーマを変えて皆さんと代議士で政策を勉強するオープンセミナーが、久々に再開されました。
4月22日あさけプラザに続いて、
次回のオープンセミナーは
**日時：6月17日（土）
17:00～18:00
会場：桑名市総合福祉会館
を予定してます。**
参加費や予約は不要ですので、お気軽にご参加ください。

『岡田かつやBLOG』開設

http://katsuya.weblogs.jp/
『岡田かつやの視点』を綴ったブログ『TALK-ABOUT』を立ち上げました。身近なテーマを取り上げて書いています。皆様のコメントをお寄せください。
（岡田かつやのホームページからご覧いただけます。）